

新  
文  
字

吾  
業  
錦

全

524

利  
目

3869

58



新刻  
五言

吾業錦

全

利日

3869

58

特  
利 9  
號 3869  
卷 58

大正七年五月廿日寄  
室井平藏氏贈

序

長月如也くく一也く  
美し可觀句詩一也く  
越へる友々々々夜中も今昔  
も可なり少くも法は  
之十余會より心速く也

いそや武蔵野乃くまへ  
ある中尔判者好んま  
かやひ作者の長き水乃  
句く野人あゝ露と木乃れ  
うせかむしあまの母あれ  
其名紙紙——小冊子と

系——きりたのちるあむ  
と紙紙小子好む——ら  
のさあゝんも侍久——りれむ  
柳和子の札と子板多ゝら  
ゆゑを幸小乞泳くは  
さふを補ひ侍好題ハ子ま



新色よちりしひて吾妻浦  
つるきさもふ也

柳堤故人乙多速



麟々評初會

やりの口吞山

むさ足中男斗り

同 真系子合ぬ

志夕評 同

か夢のへ 七ツ梅

か月のね 雲雀を貫く

のけかえ 惚く

烏肝

乙鳥

亀醉

花遊

我笑

一町

麟く評二會目

柘木子お

妙茶受へ

花遊

同

緋紗衣

泊里

入リ日

大膽背を引キ

大下

志夕評

同

夕之冠

川邊海

一町

入リ日

湯屋株買

會来

貧乏冠

所跡取

花遊

麟く評三席

昔子持

切銘子

會来

同

漏ま漏

一所

杉子持

子持大工

夢輔

同 志夕評

同

和光

子持大工

夢輔

九ツ重

死神白

烏肝

同

香屋の株

花遊

麟々評四席

逆みち 什かぬる心 如風  
よおし 十あもし 亀醉  
同 善梅で産二蝶改 乙七鳥

志夕評 同

逆みち たる考メト 乙餐  
やあぬ 澆成研キ 羨捕  
よこし 神薬子追ぬ 我笑

麟々評五席

冒松子 絶つる星 豊素  
手ごう ころころやう 花拵  
足えりう 淫を写し 乙鳥

志夕評 同

冒松子 世利薪賣 鐘下  
足えりう 行額抜キ 船里  
冒拍子 縫うる子 豊虎

麟々評六席

これより

比喩をかよ

雨林

同

倚子て死

舎來

此も原稿も

系混を

夢輔

志夕評同

ていし

倚子て死

舎來

此も原稿も

女倚も泣

大伴

月れり

告子

一可

麟々評七席

氣云

鶴下死

乙鳥

月と

鼓如朋

花遊

氣云

小性も

豊虎

志夕評同

氣云

敷下死

乙鳥

月と

明前と

雨林

氣云

入り仕

形遊



麟々評八席

待りくち

碁笥と枕

船里

愚号とつゝ

炭園の施主

雨林

月

名に似て

蘭之

志夕評八席

愚量二つ

半方波

船里

待りくち

麴棒貸

花遊

愚号とつゝ

炭室の掃

雨林

評九席

スのりくち

孝子

亀磁

月

眉毛の白

豊流

ふく

金荷をよれ

全

志夕評 同

かきく

か連るサエ

素曉

月

負きん

乙高

かきん

浦沖掬り

鼠十

麟々評十席

をり合振々

お門ノ冥キ

鼠十

おしん出ス

去年の宮や

豊虎

月

あ 蛤

乙鳥

志夕評 同

あしん出ス

痔ガ起リ

蘭光

月

あしん出ス

素曉

桐 場

神乃影

在魚

麟々評十一席

あしん出ス

裾成集

蘭光

おしん出ス

一被液

素曉

月

内羽ガ起

豊虎

志夕評 同

あしん出ス

一被液

素曉

月

合羽ガ起

菊八

盗人ト云テ

流籠流リ

船里

麟、評十二席

のぎぶ

七代平都婆

豊直

月

生、致し

乙巻

月

松子才打

船里

志夕評

同

あまがふ

河津こぶ

藤輔

月

柏子木打

船里

月

あせ州外

鐘下

麟、十三席

痛あふ

さくらんぼ

菊光

月

送りや

素晴

あやくら

上、下、屋ケ

鼠十

志夕評

同

あやくら

青茶裏

菊石

月

灰墨買

夢輔

あやくら

灰炭を貸

豊庵

己んく評十五席

あつちから

侍ごよし

乙鳥

同

手向しと

蘭光

あつちから

樹イ後君

菊石

あつちから評同

平イ生イ

巻右傳の

菊光

同

菊石より

巻席

あつちから

浅水賞イ

船星

麟の評十五席

あつちから

腰巾着

菊石

あつちから

右手花掃除

由林

同

あつちから

乙鳥

志夕評同

あつちから

扇イ居

乙鳥

同

四方入り

以菊仁

あつちから

手引よ春也

雨林

三十一 十六席

波曼如彼

氣の毒顔

鬼碎

すうさぬ

死うさげ

菊石

ひてくえ

乳母信状

乙鳥

ふせ丸 証 月

まうさぬ

死うさげ

菊石

うそくえ

居ろんせ

紫光

波曼女の没

香のお冷

在魚

三十二 評 十七席

疾よりぬ

小ぶるさけ

亀酔

粒う病

蟹松均

乙鳥

疾もり

夏浪人

雨田

志夕評 同

疾の物

酒か煙心

清輔

同

井戸あし

菊石

かく病

友如丸

乙鳥

三十八席

俊者 揃じ 飯いハい〜ぬ 毛け碎ず

何なに久く物もの云い 刺さ刀や 疵きず 策さく石いし

後のち未も知し所ところ之の 地ち獄じやくとも 乙お名な

志々評し同どう

奥おく齒かみ子こ校けうリり 癩か痢り連れん 魚い放はう

後のち者もの揃じ 附つ木き成なり焚く 乙お名な

あふあふふわわ言ご 幽ゆう霊れい子こあり 乙お名な

評十九席

探たん人にん 沃わく産さん出しゅ 一い笑せう

賣う人にん 殊こと本ほん札さつ 菊きく石いし

日ひ 志し々じ評へい 汁じゆとと仕しをを 里り蘭らん

志々評し同どう

實じつりり 残ざん 月げつ見み 乙お名な

探たんりり人にん 如ごと取と入いりり 同どう

日ひ 下した子こ長ちやう屋え 雨あめ潤じゆん

麟々評廿席

大 入り 松をいじし 乙鳥

同 志田が命 雪下

似せもみ 二めく肩々 同

志夕評 同

大 入り 夏をふんぞ 四并

少せもみ 川唇で笑い 糸碎

大 入り 志田が命 雪下

麟々評二十一席

上 入り 山をいじり 素曉

恥くきそ真 三徳落し 乙鳥

同 志夕評 同 素曉

志夕評 同

大 入り 一ツあきく 乙鳥

上 入り 万別 素曉

同 入り 初来ぬえり 亀醉

三三評二十三席

あめく 戸出めくち

夢輔

糸高り 糸直り起

乙鳥

ゆるく 老敬不

二笑

志夕評 同

とふ一ツ 暮空子

乙鳥

糸高り 飯焚口

差浦

河 糸直り起

乙鳥

志夕評二十三席

ち 休 宵中と色

龜碎

日うつり 花子の尖

雪下

中やまみ 馬田公海

素曉

柳和評 司

中やまみ 湯女伝連

龜碎

日移り 硝子格子

素曉

に 花賣も

里溪



志夕評廿四席

由舎アルキ歩キり 三井水水拿

夏浦

浮又多多 虚多信多

乙鴛

お 袴 炭と 盗

夢輔

柳味評同

ウチカケ 禰 思ぎ

亀醉

ほメ多多 虚多信多

乙鴛

但 袴 緋 縮 細

乙鳥

志夕評廿五席

アヤシク 河豚河豚日日河豚日

乙鳥

涙も多多 好多の多信多

素曉

氣多多多 中多多多

龜醉

新和評同

往 生 四多多多多多

乙鳥

ぬ多多多 所多奉多公

里園

丸多多多 系多多多多多

夢輔

志夕廿六席

多々一 席ヶ石

乙五

楽屋 蚊ヶ敷

全

人 添 百中取り

素元

奔味評司

人 泣 親鸞忌

乙

如 蚊ヶ敷

乙

娘 乙

志夕廿七席

手ありの 呪

乙鳥

円 奪道おま

風乙

あり添り 桶お取

長平

希和語日

手あもの 呪

乙鳥

あり添り 桶を取

亀醉

くものり 芳ねも草

里平

志夕廿八席

夕 鱒 賣

次 金 持子公ふ

猿 智 意 似 務 疾

柳 味 評 同

現 金 女 名 病 片

同 送 下 方

男 心 遊 し 石 下 遊 し 買

乙 亥 鳥

魚 餅

風 し

表 坑

人 全 是

路 水

志夕評廿九席

肉 塊 硯 紙 字

跡 糸 祭 願 ち ぶ ぬ

く ち 足 看 子 碑

柳 味 評 同

丹 塊 起 一 ち じ ぐ

早 足 一 ち ち 様

流 の 糸 杖 ち 買

乙 鳥

龜 醉

雪 下

里 舞

乙 亥 鳥

夢 輔

志夕評三十席

寶ヲ

座ヲ安屑

夢輔

手代焼く

糸屋を去似

里実

風 少

子早水施之

全

柳和評 同

風 同

拵をせよ心

素曉

同

子子の扱

里祥

手と焼く

糸屋と去似

全

志夕評卅一席 戊子大晦日開

拵もこせがう

茶屋を去似

素曉

不仕合

肉の女房

カ下々

同

惣量ば

乙鳥

帝味評

同

のけと紙

猿火を八

雑端

日

龜乃命

素曉

ねもこせがう

唄つて通り

夢輔

志夕評卅二席

なまがさき 正月 女 乙亥

しよめさき 下向 客 二廿八

あがさき 木枕 癩 乙亥

柳和評 同

あまがさき 木枕 癩 素品

あまがさき 冬至の鐘 乙白

あまがさき 独り 乙白 雜

志夕評卅三席

あまがさき 堅い餅 乙鳥

あまがさき 扇魔堂守 雜端

あまがさき 水汲乞食 乙鳥

柳和評 同

あまがさき 煙艸子碎 乙鳥

あまがさき 蠟燭賣 二笑

あまがさき 水汲乞食 乙鳥

あまがさき 人 乙鳥

志夕評卅四席

足

少くも教りふ

風乙

同 尻 馬

かゝるはたき

乙鴛

同 多怒の慈悲

二葉

柳味評 同

き

多し多し

乙鳥

けいせい

俗拙

雑端

きもと

金魚賣

乙鳥

志夕評卅五席

品 玉

塩煎餅

乙鳥

同 多し

踏づが

風乙

同 島山崩

柳志

柳味評 同

多し

めんづが

乙鳥

多し

橙 縊り

乙鳥

品 玉

あるせんる

乙鳥

志夕評卅六席

岩づつとり

三尺紙屑

二笑

らんきやう

泥鏝療治

菊石

本ン性

毛織指心

乙馬

奔果評 同

椎イ犯

吹雪子まじ

落砂

園ハはらま

美月水屑

二笑

入レ札

月如不

赤玉

志夕評卅七席

あきウめ

白馬牛士

差浦

角ニ

子前の墓

五舞

こまよめ

茶臼搦日

素曉

柳味評 同

角ニ

淡菴白

夢輔

ゆきウり免

橋カみ上エ

乙巻

女業

蠣カとむカ印

岷江

志夕評卅八席

の・抄・事 五布蒲團

素焼

目 母 盗

里關

ありある 指 ぬ ぬい

素焼

希味評 同

よけ心 色揚枝

雜端

何の事 嫁菜賣

岷江

心 乙布蒲團

素焼

志夕評卅九席

ま ぬ 湯 糸 桑 や ち

羞 晒

む や く 浅 絨 仕 四

全

の ま り め こん こん 又 扱 也

岷江

柳和評 同

あ き い ぬ 水 門 番

素焼

し や く 朝 鮮 人 参

岷江

ぬ ま ぬ く 出 店 の 鍵

乙 冬



柳和辭

木こやう  
かゝる  
目うつり  
天命  
此の祭り  
字とくれ  
運の手

流し賣るの  
紀法も吐き  
口師兵衛と  
木こ津り  
娘城封  
福基  
市菜  
碎



柳和辭

柳和辭

不沙法  
めいこく  
大坂中  
ていねい  
おしりけ  
おしりけ  
おしりけ  
おしりけ  
おしりけ

約 船 堂  
達 大 師  
袖 口 買 っ て  
水 虫 三  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極

おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極

おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極  
おしり 極

どれく  
てんほ  
さふら  
のこる  
たし  
所々業  
むりん  
出で入る  
よる涼

番く寝る  
女志物  
古伎上下  
決いてくれ  
ツホウトウ  
ぬうこ  
七夜も道  
中  
夢と云ふ

油  
字く  
せめ  
見忘  
くふや  
く  
油  
いや

男の祝  
人の参  
口のの  
市此  
水上  
蕎麦  
女ある  
下女  
奴

日かけの笑  
露垂る衣袂  
斧の刃こぼれ  
狐の子  
目見へ乃日  
森乳の世も  
梅干とどろり  
嵐の跡  
八人 藝

ふのひのりせ  
親父の病  
中れ 鶴  
山谷で 育ち  
拾ひ首 ても  
早苗 跡  
口舌の跡  
つくく 森  
ふま 乾

柳和評折句秀逸

何や子く糸繩を新方へ子うはしふく  
梅干著 舞のくほむさく 舞のく  
弾 舞のく 舞のく 舞のく 舞のく  
庭造り 液雨く 子 氣がぬるひ  
錦 舞のく 舞のく 舞のく 舞のく  
款さぬ おま 木 危を 焼く  
黄伽 舞のく 舞のく 舞のく 舞のく  
己が 舞のく 舞のく 舞のく 舞のく  
梅と小橋の 舞のく 舞のく 舞のく 舞のく

上、下もまらざる若原のあまはるゝ  
木魚のあまはるゝ葉摘 彩玉のあまはるゝ  
彩色のあまはるゝ佛画の寂しい  
まらざる路を 盗人の上 聞く  
縁織のあまはるゝ西日まらざる 由き  
懐かしく 京 終 彩 匠者  
後世のあまはるゝ鶏卵のあまはるゝ  
糸巻のあまはるゝお茶湯のあまはるゝ  
定家あまはるゝ中のあまはるゝ  
あまはるゝ

あまはるゝれゝ 佛を挿し  
青輝も 結荷も 遠入、造営  
あまはるゝあまはるゝ鼠草  
さーもあまはるゝ口寄のあまはるゝ  
庄寺の他ーき色よ美人  
水仕すも 鏡研 吹ふらめが  
山歸来 了ら 奇 彩 美  
立ッ吹もあまはるゝ瘴のあまはるゝ塊  
淋しく妻のあまはるゝ焼塔のあまはるゝ  
権使 あまはるゝ 越院のあまはるゝ

三十一  
旅傳の棋會は施主の所あり  
狭路怪事も腹の多門の時  
まゝありや古き電の音は  
稀連の上を非徒徳利振る  
高尾よーいさうも昼五下乃 顔  
次身よ清れた告子乃 智 惠  
一人あ毒針をさす乳母の医者  
柳橋まゝ響かせぬ 惣仕露  
茶屋争ふ雑店よ 心ちよ  
回極もわゝる 乞食 下村

困しぬ梅よ少門のろえ法 層  
齒医者乃 鄰の笛吹が半紙  
通よ 懐のまゝ ちよ ちよ  
看経のむす、嵐のちよ 静  
情を打つちよ 灸の修 佐  
幡の納よ 狂女 休  
大内も林間の酒くゝん 碎  
振く清る菊の ちよ 門 ちよ  
辻の目味よ ちよ 魚 ちよ ちよ  
音漕く船の ちよ ちよ ちよ

三十一  
梓妙子 産後を伺て苦し泣  
海物原 吟りて 陳 陸の 煉  
移る 退く 身も 大なる 哀れ  
りしも 榮<sup>コト</sup> 權<sup>コト</sup> 子 程多の 貴草  
方 新<sup>コト</sup> 命<sup>コト</sup> 命<sup>コト</sup> 命<sup>コト</sup> 命<sup>コト</sup> 命<sup>コト</sup> 命<sup>コト</sup>  
いと 仲<sup>コト</sup> 仲<sup>コト</sup> 仲<sup>コト</sup> 仲<sup>コト</sup> 仲<sup>コト</sup> 仲<sup>コト</sup>  
縁<sup>コト</sup> 縁<sup>コト</sup> 縁<sup>コト</sup> 縁<sup>コト</sup> 縁<sup>コト</sup> 縁<sup>コト</sup>  
埃<sup>コト</sup> 埃<sup>コト</sup> 埃<sup>コト</sup> 埃<sup>コト</sup> 埃<sup>コト</sup> 埃<sup>コト</sup>  
或<sup>コト</sup> 或<sup>コト</sup> 或<sup>コト</sup> 或<sup>コト</sup> 或<sup>コト</sup> 或<sup>コト</sup>  
拙<sup>コト</sup> 拙<sup>コト</sup> 拙<sup>コト</sup> 拙<sup>コト</sup> 拙<sup>コト</sup> 拙<sup>コト</sup>  
侍

為月 節<sup>コト</sup> 節<sup>コト</sup> 節<sup>コト</sup> 節<sup>コト</sup> 節<sup>コト</sup> 節<sup>コト</sup>  
身<sup>コト</sup> 身<sup>コト</sup> 身<sup>コト</sup> 身<sup>コト</sup> 身<sup>コト</sup> 身<sup>コト</sup>  
客<sup>コト</sup> 客<sup>コト</sup> 客<sup>コト</sup> 客<sup>コト</sup> 客<sup>コト</sup> 客<sup>コト</sup>  
斬<sup>コト</sup> 斬<sup>コト</sup> 斬<sup>コト</sup> 斬<sup>コト</sup> 斬<sup>コト</sup> 斬<sup>コト</sup>  
金糸 解<sup>コト</sup> 解<sup>コト</sup> 解<sup>コト</sup> 解<sup>コト</sup> 解<sup>コト</sup> 解<sup>コト</sup>  
調市 市<sup>コト</sup> 市<sup>コト</sup> 市<sup>コト</sup> 市<sup>コト</sup> 市<sup>コト</sup> 市<sup>コト</sup>  
拙<sup>コト</sup> 拙<sup>コト</sup> 拙<sup>コト</sup> 拙<sup>コト</sup> 拙<sup>コト</sup> 拙<sup>コト</sup>  
早<sup>コト</sup> 早<sup>コト</sup> 早<sup>コト</sup> 早<sup>コト</sup> 早<sup>コト</sup> 早<sup>コト</sup>  
何<sup>コト</sup> 何<sup>コト</sup> 何<sup>コト</sup> 何<sup>コト</sup> 何<sup>コト</sup> 何<sup>コト</sup>  
交<sup>コト</sup> 交<sup>コト</sup> 交<sup>コト</sup> 交<sup>コト</sup> 交<sup>コト</sup> 交<sup>コト</sup>  
近<sup>コト</sup> 近<sup>コト</sup> 近<sup>コト</sup> 近<sup>コト</sup> 近<sup>コト</sup> 近<sup>コト</sup>  
老<sup>コト</sup> 老<sup>コト</sup> 老<sup>コト</sup> 老<sup>コト</sup> 老<sup>コト</sup> 老<sup>コト</sup>

神氣多し京に宿るくは  
川にぬくありき京多き多し橋  
お家波のゆいのかよ居、徳  
所所下り新羅の口を利するく  
徳し古廟よりしも多とら  
寺侍乃風ふ 東 北  
風乃一刺刀よ 金 園 寺  
之しんん 鵬を 西 法 輪  
更し徳多き画心かきき徳花也  
昼年ききしあは日坂の餅

鴨と川に伏す彼新立り澤  
山寺を風く 通る 滝 研  
松魚 ちんちん 何うし新多  
蘇生か 船く 山外の妻  
卒如婆小町かよふ木捨い  
角力取り 禿が流んで動れま  
用猪の床も雲か流りあを  
ハ翔も白きかかすれを又衣  
猪は煮て居る 灰中か舞さ  
嶽乃しはさるしよと急く船



冬菴りあし名身く怒ん坊  
去どくつ杖も賣しり本茶屋  
領地づつと妻おんくあし  
せえく佛の産へ捨る子  
忠義とてくく之日お猪牙  
冥福お授る居てハさし  
棒我昔古もふ高経怪系ハ  
垣根のをもすおくあし茶屋  
活くくつ居るこお授る居富分  
おんくく怒るも怒るも女氣

子節お語次よ男のお素  
八重洋まても居る西行忌  
湯お近つきが切しあしの活  
貞女お夢の女人堂世を  
仕下く酔も醒る加茂川  
羞ももおりお驚く見く  
苦い顔してもよ狐畏  
二度添くお知く奴佛の気を  
多し候く捨る木琴  
人形おはるもお死る衣死り

寂しく自ら道具を  
誓古の鼻より利きくぬ伽羅  
鱈釣好き一重より手書れて  
遊蕩一てこ並く京の獅子の子  
言破るそ子供の悔る土圭 妙々  
只多き存心人の猿乃どる 風  
化粧せぬ日多き本地の箱介  
唇執て春を怪くそは足  
水身し顔をそよむる人 酒  
中よまをそ 伴山か 鯛

林の心能好茶湯へ 未  
手好 時家よ腰蓑と積心  
女房よ一ても尾ハ丸く垂れ  
仙も本地下 又水を貧し一見  
二代目好時石を才子の身紙書  
を挿く 才の才 乃 こそ  
祖箸も霍好安てよ 近のたもの  
石より好眼くさき登く 字が  
是鐵る 才よまを好やる 教  
仁王が 出まて西日りや けり

佛供養 湯れを佛も為の  
 ちつけくくく 怪口むうせらぬ  
 工夫の法、 庵る築一ドは  
 困し 子よ猫のくくア穴  
 二人 ぬあせく子も本とある  
 突出して中てもふくあゝの取  
 無記もえ、好ま名う代とある  
 一ト 鳴り鳴つて番尻とそ、庵る  
 揚弓の的 張り急る 傘月 雨  
 雪見 好連しの 拵ふト 使

夢の手 淋し、 味淋 湯 女 香  
 影 好 藤 治よ 扱 斗り 生 花  
 夕 魚 多 劇 好 窗、 尻 好 也  
 い、 ち 汚れて 入くる 浅 妙 知  
 寛 茂 考ふ 木 曾 好 洗 垢 離  
 淋し さまきく み 草の 海る 檜 廊  
 行 司 ち 二人 多る やう 居 相 撲  
 淋し さまきく まく せる 忍 心 弱  
 三尺の 離 お 好 治し かく 扱 う 文く  
 神 子 好 季の 多る さまきく 好 好

三十一  
所あてい息ふくまぬくの猪牙  
禿げ手むん去年はまじく一人  
宿下りの事もらぬをきぬるが付  
節季候がまじく大根よ穀  
やまじくよ持って足きん女房  
栗盗人の陳はまじく出る  
焚くる回れを藤原をよ守りけり  
ま擦入る子よ端に居る春茶也  
ませぬまじく何れ定乃川にぬ  
り、新あるをぬくの茶

みんかあ勝つとくま武者修り  
指にぬるまじくまじく妻くあるま  
利刀斗り切れるまあ戸  
入り撃年のいどあるまある風の  
千住の爺も釜の穿り出  
おまじりつまじくまじくまじくま  
尚らまじく緋屋のあまじり人のと  
蔭つ名の白いま斗りの木場の蔭  
蔭者をまじくまじく連して迎ひ湯  
行く新臂まじくまじくまじくま

屏立ち腰うろ下々を訴り〜  
いつのそよ安を尻がま〜  
結白く恋の仕つけよ  
一ッ端の蓮子持佛のか〜  
伴香保の利うぬ妻のりき〜  
寺町そそ夏も〜  
蛇ハナ子女の苦手口が〜  
硝子竈の鼻先〜  
産焼食く〜客入し智恵

川姑お宿中子口〜  
女房まき〜  
靴味〜  
判〜  
閑居〜  
何よを〜  
涙の中〜  
女房〜  
舌口〜  
か〜  
妹

神よき法をた 芳野の妻  
まぬぐうところの首尾の松  
碓<sup>ツツ</sup>の訓しーの七種  
されをふおを重したる物地の湯茶  
山寺で云合々存る借一本屋  
る手着イ顔の似合ぬ鉢 押  
はあゆむに寝る縁ひり小兒  
化もせむが嵐もあつた普代猫  
持テ子子さるふも通夜のヤミ子  
兵具屋も羽二つ水あらん 持

獨吟

五月の夕まに 綾をちやう風流花柳  
月信 牛乃綱と木乃毫  
くろくろく長サハ 咄々好 寂く  
のく河釜乃 御音キ ちんちん  
久しいの空とをよま 信ん  
急らとやソれ 渡ー 艘  
正直よ 差 ちんちん小社守  
まかく 嵐乃 咄ひー 節用  
垂下蜘蛛の糸かく 纏 十文字  
三十九

こと乃玉川もあはぬれまふは  
 高人やあつても意を面ふま  
 むらゝ女流髪のかひふふ  
 物忌ひよまき日きこみり斗  
 弓箏筋よ鼓うゝ甘き  
 若る時懐かきくす金屏風  
 彩舞一乃戸の節ハハハハ  
 月とどお赤く夷々うらやま  
 雪會は企よのち子  
 風光る百を浦如大二階

